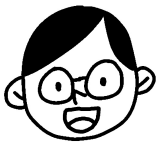
職員用：穂波東校小中一貫教育だより
平成 31 年 1 月 17 日　第 13 号
文責：小中一貫校穂波東校　山本

◎　小中一貫教育を切り拓く（その１）

穂波東校は、驚くべき短期間に、他の小中一貫校と肩を並べる小中一貫教育を「教育活動づくり・学校運営づくり・校内環境づくり」の三つの柱で創り上げ、その一端を昨年の研究発表会で披露し、高い評価をいただきました。先生方のご尽力には、いつも感謝しています。

そこで、この穂波東校の小中一貫教育を更に一歩前進させるために必要な「見方・考え方（理論）」及び「具体的な取組（案）」をお示ししたいと思います。

穂波東校小学部・中学部の全職員が、同じ見方・考え方を持って、同じ方向性で取組を一歩前進できればと思っています。
取組は「無理なく・無駄なく・効率よく」進めます。
「だより」は３号に分けお伝えしますので、ぜひ、ご一読下さい。



「だより」は２月１４日（木）に予定されている「小中合同研修会」でも資料として取り扱う予定です。

(1) 小中一貫教育とは

小中一貫教育は、子どもの連続的な学びと育ちの実現を目指す教育です。

以前はその目的が「中１ギャップの解消」と表現されていました。しかし、近年では「子どもの連続な学びと育ちの保障（連続的な教育）」へと変わり、小中一貫教育のとらえが「小６から中１への接続期のみの教育」から「小１から中３までのすべての繋ぎに係る教育」となってきています。

穂波東校でも、中期だけはなく、前期・中期・後期のすべての期間において小中一貫教育に取り組みましょう。

(2) 連続的な教育

「連続的な教育」の第一の目的は、言うまでもなく、「子どもの連続的な成長」です。

「連続的な教育」の取組例を、「学力テストの結果分析」で説明します。

学力テストの結果分析において、「全国・県平均の平均と比較する」等の「同一学年同士の比較」（これを「横方向の見方」と言います）に留まった場合、これは「連続的な教育」とは言えません。この「横方向の見方」による分析も大切ですが、対象の子どもの前年度までの結果との比較（これを「縦方向の見方」と言います）を行ってこそ「連続的な教育」となります。

この他にも、異学年交流を通じて、子どもたちが互いに手本としたり、手本とされたりしながら成長していくことも「縦方向の見方」に基づく「連続的な教育」の一例であると言えます。

「縦方向の見方」は小中一貫教育において重要なポイントとなります。

穂波東校でも「縦方向の見方」に基づく「連続的な教育」の充実に取り組みましょう。